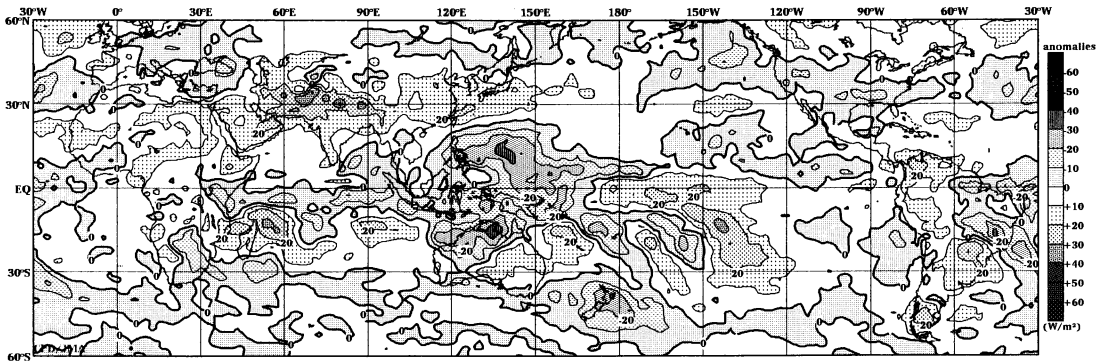
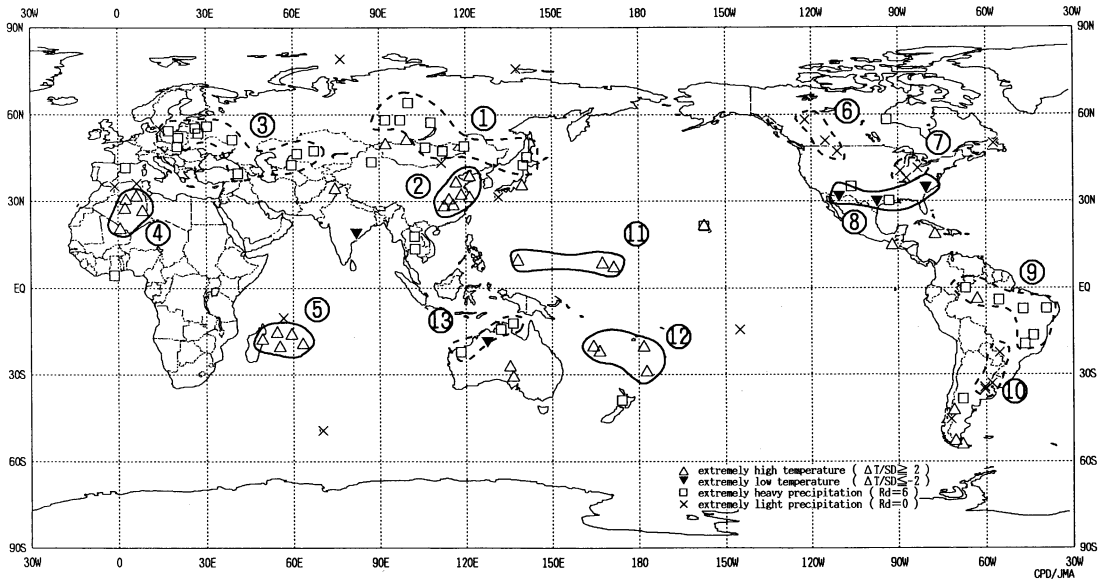


2004年2月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2004年2月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は  $10 \text{ W/m}^2$  で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA、年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2004年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。